

横田基地で3カ国合同「国内隊付訓練Co-OP」の研修を実施

Trilateral Co-Op tour held at Yokota Air Base

November 21, 2022

By Airman Jarrett Smith
374th Airlift Wing Public Affairs

陸上自衛隊、米軍、オーストラリア軍の3カ国の隊員が11月17日、キャンプ座間で開催された「国内隊付訓練(Co-Op)」の研修の一環として横田基地を訪れた。

同研修は、3カ国の連携の強化、英語力の向上、そして在日米軍の任務について陸上自衛隊員に理解を深めてもらうことを目的としている。

第374通信中隊電力生産技術官ダラス・ベナビデス軍曹は、「(研修を通じて)自衛隊員は、米軍の兵士や空兵からリーダーシップや戦闘経験に関して多くのヒントを得られる」「米軍の陸軍の兵士や空兵はそれぞれに陸上自衛隊員とパートナーを組むので、互いの職務についても多くのことが学べる」と言及した。

同研修に参加したメンバーは、第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズを見学したほか、国連軍後方司令部で説明を受け、またAFN東京において任務を実際に見て学んだ。

練馬駐屯地第1普通科連隊狙撃班所属の小椋亮3等陸曹は、同研修について「素晴らしいプログラム」と語り、「米軍の陸・海・空・海兵隊の部隊とそれぞれの文化について学ぶことができる。陸上自衛隊は地上の領土を守る事が主体だが、米空軍は戦力を世界中に展開している。この研修で米空軍のことをいろいろと学ぶことができた」と述べた。

オーストラリア陸軍の兵士が加わり3カ国合同で研修を行うのは、新型コロナウイルスの流行が始まって以来、今回が初となった。「国内隊付訓練」の研修は、米軍をはじめとする管轄地域のパートナー部隊や同盟国との陸上自衛隊の連携を強化し、自由で開かれたインド太平洋を推進するため、四半期に1度実施されている。

